紫陽花まつりでの周遊バス

観光の振興について

質問（小池利雄議員）地域の特性を生かした観光の活性化について伺います。

答弁（市長）本市では、点在する観光施設をルート化して、観光モデルコースとして提供し、観光協会とも連携をしながら、市内外でのイベントにおいて観光ＰＲに努めているほか、駅からハイキングなどＪＲとの着地型観光旅行の共同開発、農商工と連携した地酒やトウガラシなど特産品による物産振興にも努めております。

また、平成二十二年度から三年間、全国商工会連合会の補助を受けて、黒羽商工会が事業主体となり、芭蕉の郷くろばね紫陽花まつりを核とした「集客ＰＲ事業」を実施しております。本事業は広く県内外から集客の見込める紫陽花まつりに合わせて、本市の観光、文化、産業技術などの地域の資源情報を幅広くＰＲし、本市の魅力を内外に集中的に発信しております。

さらには、地域情報を満載したパンフレットの作成や新聞紙上で重点的にＰＲを行ったほか、土・日曜日には周遊バスやシャトルバスの運行を行い、観光客の利便を図り、地域内の滞留時間の延長を計ったものであります。その結果、本年度の紫陽花まつりにおけます観光客入り込み数は前年よりも一万一千人増え、十万六千人となったところであります。

今後は、さらに経済効果を上げるよう、観光に来られた方の滞留時間を少しでも長くするための観光振興策を展開し、地域イメージの向上や他地域の商品との差別化を図るために大田原ブランドの確立に取り組んでまいります。

車いすマラソン大会について

質問（八木英子議員）車いすマラソン大会が中止となった経緯について伺います。

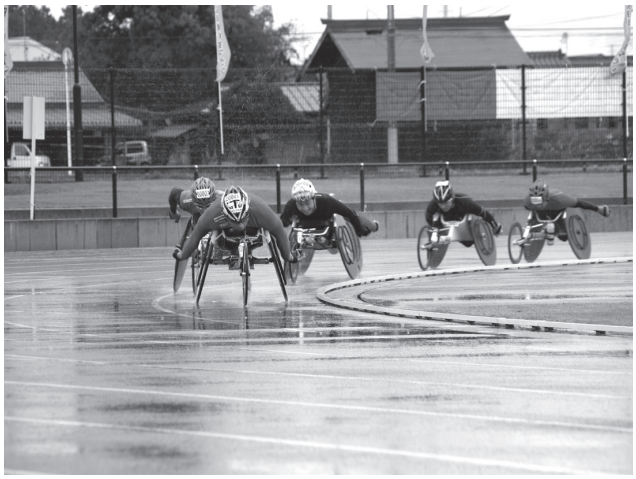
答弁（教育次長）車いすマラソン大会は、障害のある人とない人が触れ合い、支え合い、生き生き暮らしていけるまちづくりを進めようという趣旨で、平成十八年に第一回大会を開催し、昨年で第五回大会を迎えております。大会は、大田原マラソン大会の十キロメートルのコースを使って実施しており、車いすマラソン終了後にイベント広場で車いすの体験や指導をしていただき、大田原マラソン大会参加者や市民の皆様との交流を持っていただいております。参加者は、平成十九年度の二十二名が最高で、今年度は十六名の参加申し込みでありました。

昨年の事業仕分けでは、「市内に参加者がいない。県内の参加者も少なく、大田原市で開催しなくてもよいのではないか」さらには、「障害者スポーツの振興はほかにもあるはず」との意見が多く、不要という結果になりました。

また、昨年から交通規制が変更され、特に国道四〇〇号の交差点では、防御マットを担当しているボランティアの方々のすぐ後ろを車が通過していくという非常に危険な状況であり、ボランティアの方々の安全確保と矢板方面への迂回路確保が困難なことなどが大きな問題となっております。

以上の内容について、大田原車いすマラソン実行委員会で協議した結果、実行委員会において中止という決定をしております。

今後、新しい障害者スポーツ振興策について取り組み、検討してまいります。


最後となった昨年大会の模様